

「土壌に関する勉強をすることで収益向上等経営が改善」

北海道勇払郡むかわ町 土壌医 根本 浩

札幌土壌医の会会長

1. プロフィール

- ・名前 根本 浩
- ・経営概況 主に畑作 35 ヘクタール
- ・作物 大豆、小豆、蕎麦、甜菜、小麦、大麦
- ・地域 北海道勇払郡むかわ町で経営

2. 土壌医検定試験受検の動機

土壌には興味があったので、日本土壌協会のホームページを時々見ていましたが、農業実務経験で受験できる試験制度があると知りました。私は地元の高校卒ですが土壌医検定1級試験を受けてみました。

高校卒業して以来 30 年近く試験と無縁の世界にいましたので、試験というものがどんなものか興味を持って試験を受けました。

試験を受けてみると、まず問題の意味を理解することが難しくとっさに答えることができないことがわかりました。試験はどんなものかを確認することと馴れるために受けました。

最初の土壌医1級試験の結果は惨敗でしたが、この年から本腰を入れて勉強しました。

毎年、冬は農閑期となり、勉強する時間もありましたので、試験の可否に関係なく年中行事のように4回試験を受け合格いたしました。

3. 農業経営面でのメリット

塩基バランス改善等施肥の見直しなどの作業は何10年と行ってきておりますが、知識を



写真：作付け前の圃場での筆者

より深く身につけることで、小麦については3割の増収、ジャガイモについても10アール当たり1トン増収（規格外も含む）、その他の作物も良くなりました。このように土づくりの知識を含めることで、経営的に非常に良い効果をもたらすこととなりました。

キャベツ栽培で、干ばつになった年に芯ぐされ症状出ました。その時対策がないかと調べると、土壌医検定2級参考書に芯ぐされ症はカルシウム不足によると書かれていたことを思い出しました。これにより対策を行うことができました。現場の問題解決に参考書が役立ちました。また、微生物性や土壌病害についての対策なども書かれておりますが、これから農薬耐性菌などの出現で農薬に頼らない土づくりが求められるようになり大変重要となります。

特に過剰施肥に対しては、見直していかねばならず、土壌分析の必要性がこれからますます高まってくると思われます。

堆肥をコスト面からみて見ると、土壌分析結果から判断して肥料換算で 10a 当たり 7,000 円以上のコストダウンが可能で、長年堆肥投入していると窒素成分の減肥が重要になってきます。私の圃場の土壌では加里が不足しやすいので、堆肥施用が加里の補給に適しています。

堆肥の投入、緑肥間作、麦の後作の緑肥などで有機物補給と線虫対策などを行っていますと、土壌病害も少なくなり、農薬散布量も減少してコスト的にも貢献していると感じています。

4. 農家・農業法人へのメッセージ

土壌医検定試験を契機に土壌の勉強をすることの意義ですが、自分の圃場の土壌について具体的に理想的な土壌とは何かを知ることにあります。理想的な土壌を漠然と考えてい

ても良くなりません。とりあえず、排水性などの物理性については大体の人はわかりますが、その次に化学性の面を活かしていく必要があります。これについては、土壌分析をしてその分析結果をきちんと理解して適した施肥の仕方を行っていく必要があります。これについては、土壌医検定 2 級参考書に肥料の特性が書いてありますので、コスト的に安い肥料などを使い、化学的に理想の土壌を目指してほしいと思います。



写真: 今年もコスト低減できてニコリ